

gacco が提供する新しい学びのスタイル — 日本初の大規模オンライン講座 —

The New Learning Style Provided by gacco -Japan's First Massive Open Online Courses-

張 晨, 倉持 淳

Chen ZHANG, Atsushi KURAMOCHI

株式会社 NTT ドコモ ライフサポートビジネス推進部

Smart-life Solutions Department, NTT DOCOMO, INC.

HP: <http://gacco.org/about.html>

あらまし：gacco は日本初の Massive Open Online Courses (=MOOC)であり、新たな学習の場として社会人を中心に人気を集め、大学からはマーケティングツールの一つとして注目されている。反転学習やモバイル端末を活用した授業の普及が進む近年において、gacco のようなオンライン学習プラットフォームが教育に与える影響は大きい。また、法人向けには低コストな e-learning システムの構築も可能である。本稿ではマーケティング・反転学習・教育 ICT 環境構築の三つの側面から gacco が持つ様々な特長について考察する。

キーワード：MOOC, gacco, マーケティング, 反転学習, e-learning, 教育 ICT

1. はじめに

Massive Open Online Courses (MOOC)とはインターネット環境のある誰もが受講可能な大規模オンライン講義のことである。海外では 2012 年より edX や Coursera をなどの本格的な MOOC 提供者が出現し、今日に至るまで 2 千万人以上の利用者を集めている。

日本においては日本版 MOOC の普及・拡大を目指し、一般社団法人日本オープンオンライン教育推進協議会（略称 JMOOC）が、日本全体の大学・企業の連合による組織として 2013 年に設立された。その公認プラットフォームである gacco は 20~50 代を中心に人気を集め、2015 年 5 月末時点で約 13 万人に利用されている。

2015 年 5 月 14 日、総理官邸で開催された第 30 回教育再生実行会議において大学による MOOC の戦略的活用推進の提言がなされたことを踏まえ、本稿では gacco の特長とそれが教育に与える影響について考察したい。

2. 新しい学びのスタイルとマーケティング

gacco に代表される MOOC は、新たな学びのスタイルを提供し、大学にとってはマーケティングチャネルにもなり得るプラットフォームである。

大学の講義をインターネット配信する試み自体は 10 年以上前から存在するにも関わらず、ここ数年の MOOC の躍進には次の理由がある。

第一に、動画を中心にした学習スタイルが挙げられる。gacco では講義動画 1 本あたりの時間を約 10 分に細分化し、一週間の講義を 6~12 本程度の動画にまとめている。これにより、多忙な社会人でも空いている時間に受講することが可能になるため、非常に学習しやすい仕様になった。

さらに、gacco は相互学習促進の一環としてディスカッションボードを設置し、講義内容についての議論や課題に関する質問など、受講者が交流するための一助になっている。

また、講座を修了したものには修了証が与えられる。このような点は社会人以上の受講者に達成感を与え、継続的な学習意欲の向上につながるだろう。

こうした新しい学びの形により、gacco ではサービス開始から 1 年あまりで約 33 万の受講登録があった。特筆すべきは年齢層で、40~50 代の受講者が全体の約 4 割を占めている。この年代は高校生や大学生の子供がいる場合が多い。このような層が gacco をはじめとする MOOC を通じて大学の授業に触れることは、大学の認知度やイメージの向上につながり、子供の大学選択にも少なからず影響を与えるだろう。

日本においては大学の学生数の定員割れが社会的な関心を集めている。より多くの学生を集めるため、大学は自校の特色を打ち出し他大学との違いを打ち出す必要性がでてきた。MOOC での大学講座公開はその有効な手段の一つである。

例えば、米国の MOOC 大手である edX では高校生向けの High School Initiative というプログラムを立ち上げ、40 以上の大学が講座を提供している。高校生にとって MOOC を通じて大学の講義を受講することは、その大学を知るだけでなく、関心のある学部や学科について理解深められるため、大学選びに多いに参考になる。大学にとっても「潜在顧客」である高校生に早期にアプローチできることはマーケティングの観点から重要である。オンラインであるため電車の広告と違い時間や場所を選ばず宣伝可能だ。また、留学生の誘致にも役立つことは無視できないメリットである。gacco においては主な受講者は 20~50 代であるもの、高校生向けのビジネスブ

ラン制作講座の開講や一部講座の英語字幕対応など、徐々に受講者層を広げつつある。

gacco はディスカッションボードや修了証など、従来の学校に近い環境を用意することで、独学を想定した e-learning システムに対する優位性を獲得し、オンライン教育市場の中で存在感を増している。また、大学の認知度やイメージ向上にあたり、親と子の両方に時と場所を選ばずアピールできる点は魅力的だ。新たな学習の場として、またマーケティングチャネルの一つとして、gacco に代表される MOOC の利用は今後ますます拡大していくと考えられる。

3. 反転学習における生徒・教師への効果

「自宅で基礎知識を習得し、学校の時間を討論や応用課題に充てる」反転学習の実施にあたり、MOOC は必要不可欠なものになっている。

反転学習のねらいは貴重な授業時間で討論や学生同士の教え合い、発表会など「対面した時でないとできないこと」や「学んだことの応用」に集中して取り組むことにより、学習効果を最大化することだ。このためには生徒の事前学習による基礎知識の定着が重要になってくることは言うまでもない。

gacco ではビデオ講義中心の学習スタイルにより、単なる資料熟読ではなく説明や実例を交えた、事前学習には最適な環境を実現している。さらに、視聴だけでなく、動画・字幕のダウンロード、動画再生速度の調整も可能にした。これらの工夫により、理解度の異なる学生がそれぞれのペースで課題に取り組み、授業に臨む前にしっかりと基礎知識を身に付けることができる。教師の側では一方的な知識のインプットにかかる時間を最小限に抑え、さらに理解が遅れている生徒に対する補講時間も削減可能になる。反面、授業での生徒同士の積極的な意見交換を促すためにファシリテーターとしての能力が求められるようになるだろう。

このように、gacco の普及とともに反転学習のような新しい学習方法は今後さらに広がっていくと予想される。

4. ASP 利用による安価な教育 ICT 環境の構築

企業や大学等の教育機関向けにも gacco は有益な教育 ICT 環境を提供するプラットフォームとなり得る。具体例として、gacco プラットフォームを ASP で提供するクローズドな e-learning システムが挙げられる。gacco の機能をネットワーク経由で顧客にサービスとして提供することで開発等にかかる諸費用を抑えつつ、講師と受講者は一般的な e-learning システムと同等の機能を持った教育プラットフォームを利用することができる。また、先述の動画視聴に関する工夫や修了証などに加えて、gacco は既存の e-learning システムには珍しい特長も多い。

代表的な仕組みとして、レポート等の課題における相互採点がある。受講者は課題提出後、他の受

講者数名の提出物を事前に通知された評価基準に従って採点することになる。採点后、同じく数名の受講者によって採点された自身の課題のスコアを確認することができる。このようにして、「提出したまま」を防いで自身の成果物を省みつつ、課題に対する理解をより深めることができる。

講師にとって受講者とのコミュニケーションのとりやすさや学習進捗管理のしやすさも大きな利点である。例えば、ディスカッションボードは講師への質問受付として活用できる。受講者から頻繁にされる質問については掲示板で全員に共有できるので、講師としては何度も同じ回答をしたり、周知に費やしたりする労力が軽減されるだろう。受講者の多い講義ほどこのメリットは大きいといえる。また、動画視聴数・受講日付・テスト点数等を随時把握できるため、全体的な進捗を把握しつつ授業を進め、必要に応じて課題などに変更を加えることができる。

これらの特長を備えた gacco のプラットフォームを個々の企業・教育機関専用のカスタマイズして安価に利用できることは、さらなる広がりが見込まれる e-learning 分野において確かな強みとなるだろう。

5. まとめ

MOOC は様々な可能性を秘めたオンライン教育プラットフォームである。

日本初の MOOC である gacco はディスカッションボードによる相互学習や修了証の発行など学習意欲を継続させる仕組みにより、既存の e-learning システムに対する優位性を確立した。開始 1 年で 13 万人の会員により、大学の新たなマーケティングチャネルとしても非常に魅力的なものになっている。

上記に加えて、ビデオ講義中心の新しい学習スタイルは、「自宅で基礎知識を習得し、学校の時間を討論や応用課題に充てる」反転学習に最適である。

また、gacco 最大の長所はこれらの機能を企業・教育機関に提供し安価でクローズドな教育 ICT 環境を構築することだ。gacco の特長であるレポートの相互採点や優れた学習管理機能は、教育コストの削減と効率化に貢献することができる。今まで講師が担当していた社員研修の一部はオンライン学習に置き換わりつつ、両者の組み合わせによりさらに高い効果を上げることができるようだろう。大学では基礎知識の予習や小テストのほぼ全てをオンラインで完遂することが可能になる。

これら新しい学びのスタイルは、今後の gacco の利用拡大により、ますます普及・促進されるだろう。

参考文献

- (1) 西岡正子: “成長と変容の生涯学習”, ミネルヴァ書房 (2014)
- (2) 文部科学省調査結果: “平成 24 年度開かれた大学づくりに関する調査研究”, (2013)
- (3) 金成隆一: “ルポ MOOC 革命 無料オンライン授業の衝撃”, 朝日新聞社, 東京, (2013)